

ホッケー

かためん つか じ がた つか
片面しか使えないL字型のスティックを使ってドリブルやパスをし、
あいて いて とく てん せき せようぜ
相手ゴールにボールを入れて得点を競う競技です。



日程・会場 ● 10月1日（水）～10月5日（日）

・ [OSPホッケースタジアム](#)

（滋賀県立伊吹運動場）

・ [米原市伊吹第1グラウンド](#)（4日まで）

プログラム詳細は

p. 3～ 参照！

一般観覧 **(可)** 事前予約不要／入場無料／入場整理券なし

インターネット **LIVE配信・見逃し配信** も無料！（主に決勝戦）

・フラッシュ撮影禁止、撮影可能エリアを限定

・競技会場内の所定の場所、競技会場以外での観戦は御遠慮ください。

競技のルールや見どころは **p. 4～** 参照！

競技紹介

- 1チーム11人（うち、1人はゴールキーパー）で編成され、登録選手であれば時間内に何回でも交代することができます。
- シューティングサークルの中から撃たれたシュートのみが得点となり勝敗を決します。
- 競技時間は、1クォーター15分×4クォーター、ハーフタイム8分で行われます。
- 「ペナルティコーナー」というセットプレーがあり、何人でも攻撃に参加できる攻撃側に対して、守備側はキーパーを含めて5人で守備を行います。多くの得点が生まれるその攻防はホッケーの見所です。



滋賀県選手団

- 成年男子：滋賀県庁職員が監督兼選手を務め、社会人チームや地元出身の大学生などで構成されるチームです。（オリンピックも！）
- 成年女子：県内で働く会社員や教員などのチームです。（オリンピックも！）
- 少年男子：伊吹高校の生徒たちが出場！
（インターハイ3度優勝、国体6度優勝、全国高校選抜4度優勝！）
- 少年女子：男子と同じく 伊吹高校の生徒たち。
（インターハイ6度優勝、国体1度優勝、全国高校選抜6度優勝！）

見どころ

● <滋賀県選手団>

少年の部は男女ともに滋賀が誇るホッケーの強豪・伊吹高校から出場。

U18日本代表の大辻昊輝選手・松居嘉彦選手・常喜琥太郎選手・堀江雅選手・山本鈴菜選手など世界レベルのプレイヤーが勢揃い！

ホームである米原市で、男子は2連覇、女子は昨年3位を超える成績に期待大です！

● <滋賀県選手団> <オリンピック>

成年の部には、男女ともに、パリ五輪や東京五輪に出場したオリンピックが出場。

ライバル県の岐阜や栃木や広島に勝って優勝目指して頑張れ！

- ゴール前の「シューティングサークル」の中から打たれたシュートしか得点にならないため、このサークル内での激しい攻防に注目。

L字型のスティックを選手たちが華麗にさばいて、野球ボール程度の球が時速100～200kmで地を這うスピード感と迫力に、行きつく暇もありません！

滋賀県広報課の注目ポイント

- 伊吹高校のある米原市が「ホッケーの町」として育った背景には、44年前の『びわこ国体』で米原市（旧伊吹町）が競技会場となったのがきっかけ！
なじみのないスポーツだった状況から、スポーツ少年団や中学・高校のホッケー部が創設されるなど、大会を契機に滋賀県は全国有数のホッケー強豪県となりました。
- 元日本代表で東京五輪でも活躍した田中健太選手（成年男子の部）は、地元・米原市開催の今大会を最後にユニフォームを脱ぐ決意を表明しています。
中・高・大と日本一を経験し、和歌山県庁の職員を経て、30歳で強豪オランダのプロリーグに挑戦した異色の経歴の持ち主。日の丸を背負い続けたエースストライカーの最後の戦いを目に焼き付けましょう！

〔6〕ホッケー競技

米 原 市

競 技 日 程

チ ー ム 代 表 者 会 議	9月30日（火）16時00分 米原市伊吹薬草の里文化センター ジョイホール
開 始 式	9月30日（火）チーム代表者会議終了後 米原市伊吹薬草の里文化センター ジョイホール

期 日	試合 No.	OSPホッケースタジアム	試合 No.	米原市伊吹第1グラウンド
第1日目 10/1（水）	9：30～10：44	(1) 少年男子 徳島県 vs 福井県	①	成年男子 島根県 vs 北海道
	11：10～12：24	(2) 少年男子 北海道 vs 岐阜県	②	成年男子 山形県 vs 奈良県
	12：50～14：04	(3) 少年女子 愛媛県 vs 長崎県	③	成年女子 富山県 vs 佐賀県
	14：30～15：44	(4) 少年女子 福井県 vs 北海道	④	成年女子 北海道 vs 岩手県
第2日目 10/2（木）	9：00～10：14	(5) 成年男子 滋賀県 vs 香川県	⑤	少年男子 岩手県 vs 島根県
	10：40～11：54	(6) 少年女子 岩手県 vs 奈良県	⑥	少年女子 滋賀県 vs 栃木県
	12：20～13：34	(7) 成年女子 滋賀県 vs 山梨県	⑦	少年女子 岐阜県 vs (3)の勝者
	14：00～15：14	(8) 成年女子 奈良県 vs 香川県	⑧	少年女子 (4)の勝者 vs 島根県
	15：40～16：54	(9) 成年女子 広島県 vs (3)の勝者	⑨	成年女子 (4)の勝者 vs 岐阜県
第3日目 10/3（金）	9：00～10：14	(10) 成年男子 (2)の勝者 vs 栃木県	⑩	少年男子 (2)の勝者 vs 栃木県
	10：40～11：54	(11) 成年男子 岐阜県 vs (1)の勝者	⑪	少年男子 奈良県 vs 佐賀県
	12：20～13：34	(12) 少年男子 滋賀県 vs (1)の勝者	⑫	成年男子 鹿児島県 vs 福井県
	14：00～15：14	(13) 少年女子 (6)の勝者 vs (8)の勝者	⑬	少年女子 (7)の勝者 vs (6)の勝者
	15：40～16：54	(14) 成年女子 (8)の勝者 vs (9)の勝者	⑭	成年女子 (9)の勝者 vs (7)の勝者
第4日目 10/4（土）	9：00～10：14	(15) 少年男子 (11)の勝者 vs (10)の勝者	⑮	少年男子 (12)の勝者 vs (5)の勝者
	10：40～11：54	(16) 成年男子 (12)の勝者 vs (10)の勝者	⑯	成年男子 (11)の勝者 vs (5)の勝者
	12：30～13：44	(17) 少年女子 (13)の勝者 vs (13)の勝者	⑰	少年女子 (13)の敗者 vs (13)の敗者
	14：20～15：34	(18) 成年女子 (14)の勝者 vs (14)の勝者	⑰	成年女子 (14)の敗者 vs (14)の敗者
第5日目 10/5（日）	9：00～10：14	(19) 少年男子 (15)の勝者 vs (15)の勝者	⑱	少年男子 (15)の敗者 vs (15)の敗者
	10：50～12：04	(20) 成年男子 (16)の勝者 vs (16)の勝者	⑳	成年男子 (16)の敗者 vs (16)の敗者

表 彰 式	少年女子	10月 4 日（土） 競技終了後	米原市ホッケー競技会場 おもてなしエリア
	成年女子		
	少年男子	10月 5 日（日） 成年競技終了後	
	成年男子・総合		

ホッケー競技の見方

1 ホッケーの歴史

★ホッケーの始まり

1922 年（大正 11 年）アテネの海岸防波壁から紀元前 500 年頃の浮彫が発見されました。

この岸壁には 6 人の裸像がスティックを持って立ち、そのうち 2 人が向かい合って競技開始の姿勢をとっているところから、当時、ホッケーのような競技が行われていたのではないかと推測されています。近代スポーツとしてのホッケー競技は、1887 年、競技規則を整備してイギリスホッケー協会が創設されたのが始まりで、フランス・ドイツなどヨーロッパへ、そしてイギリスを媒体としてアメリカ・オセアニア（オーストラリア・ニュージーランド）・アジア（インド・パキスタン）・アフリカ（ケニア・南アフリカ共和国連邦）へ普及が進み、オリンピックの振興とともに全世界に愛好される競技に発展しました。

★日本のホッケー

わが国にホッケーが伝えられたのは 1906 年（明治 39 年）11 月、当時東京麻布にあった聖アンドリュース協会の牧師として来日されたウィリアム・T・グレー氏が、慶応義塾講師小倉和市氏の紹介により慶応義塾でホッケー競技を指導されたのが最初です。その後、東京・名古屋・大阪・神戸にホッケー倶楽部が誕生し、1922 年（大正 11 年）、戸山学校教官であった加藤真一氏の指導により陸軍戸山学校（体育指導者養成校）の校技として採用され、これに相前後して各大学・旧制高等学校・旧制中等学校男女へと普及しました。

また、当時、皇太子であられた昭和天皇が、加藤真一氏よりホッケー競技の手ほどきをお受けになり、その後、宮様チームが誕生し、秩父宮、山階宮、賀陽宮様等がメンバーにお入りになられ、1924 年（大正 13 年）3 月 31 日、赤坂東宮御所芝グラウンドにおいて皇室チーム対陸軍戸山学校チームのホッケーの試合が行われたことは日本ホッケーの歴史の中に特筆されるべきことであります。

国民体育大会のホッケー会場を視察される宮様の中には、英国留学中にホッケー競技を楽しまれた経験をお持ちになる秩父宮妃、選手として活躍された三笠宮寛仁親王殿下並びに故高円宮憲仁親王殿下等、経験者も多く、深い関心と興味を持ってご観戦になっておられます。

戦後は、国民体育大会の進展が競技普及の大きな基盤となり、実業団、社会人、大学、高校、中学校に男女多数のホッケーチームが誕生しているほか、最近では小学生によるスポーツ少年団やマスターズ（男女）のホッケーチームが全国各地に作られ、全国大会が楽しく盛大に開催される等、今日一段と隆盛を見るに至っています。

2 ホッケーの見どころ

ホッケーは、分かりやすく言えば、スティックで行うサッカーのようなものです。サッカーと同様に、1人のゴールキーパーと10人のフィールドプレイヤーの計11人で構成されています。サッカーとの大きな違いは、サッカーが足を使ってボールをコントロールしますが、スティックでボールをコントロールすること、得点はゴール前のサークル内から放たれたもののみが認められることや、オフサイドがないことなどです。そして、審判はサッカーが1人であるのに対し、ホッケーは2人の審判が試合の進行を行います。これは、ホッケーの試合展開が早いいため、攻守が一瞬にして入れ替わる目の離せないゲームだということを如実に物語っています。

プレイヤーは常にスティックを持ってプレーしなければならない、そのスティックも片面（平らな面）でしかボールを扱えません。ボールについて、危険防止のため、プレイヤーの密集しているところへボールを上げたり、近くにいる相手を狙うようにボールを上げてぶついたりすることは反則になります。また、ゴールキーパー以外のプレイヤーはボールを足で蹴ったり、体を使って運んだりすると反則になります。

ホッケーのゲームで、注目して見ていただきたいのは、いかにしてサークル内にボールを持ち込み得点につなげるか。そのためにどんな戦略を立てボールをコントロールするか。特に片面しか使えないスティックをフォア（体の右側でボールを扱うこと）、リバース（体の左側でボールを扱うこと）を巧みに持ちかえ、パスやドリブル、シュートをするプレイヤーのスティックワークの妙技です。そして守備から攻撃へ、攻撃から守備と切り替わるスピーディーなゲーム展開とチームワークです。

3 ホッケーのルール

★フィールド

ホッケーのフィールドは、縦 91.4m のサイドラインと、横 55m のバックラインによって囲まれた長方形です。

両方のバックラインには、幅 3.66m、高さ 2.14m のゴールがあります。ゴール前には、半径 14.63m の半円形をしたサークルがあり、その中からのシュートがゴールした場合のみ得点と認められます。

サークル内にはゴール前 6.40m の地点にペナルティ・スポットがあり、その地点からペナルティ・ストロークを行います。

サークルの外側には、5m の距離を明示する破線が引かれています。

フィールドにはセンターラインが引かれており、バックラインからセンターラインに向かって 22.9m のフィールドを横切る 23m ラインとバックライン、当該サイドラインで囲まれたエリアを 23m エリアと呼びます。

★チーム

フィールドプレイヤーは、同色、同柄のユニフォームを着用し、また、ゴールキーパーはサークル内で体を使ってゴールを死守する役割を担います。そのため、ボディプロテクターやその他の防護用装具を身に着けることが許されています。

★用 具

①スティック

スティックの重さは、737 g以下で、幅 5.1cm 以内、長さ 105 c m以内、片面が丸みを帯びているものが使われています。

②ボール

表面はプラスチックでおおわれ、ボールの重さは 156 g～163 g、周囲は 224 mm 以上 235 mm以下とされています。近年は、白色ボール（プラスチックでコートされたもの）が使用されています。

★試合時間

各 15 分のクォーター制で実施されます（計 60 分）。また、第 1 Qと第 3 Qの後に 2 分の休憩、第 2 Q終了後に 10 分のハーフタイムが設けられます。同点のときは、プレイヤーとゴールキーパーの 1 対 1 によるシュートアウト(SO)戦を行います。
※ 決勝戦及び 3 位決定戦においては、SO戦を行わず、両チームが優勝あるいは 3 位となります。

★試合の開始と再開

試合開始、ハーフタイム後、及び得点後の試合再開は、フィールド中央でセンターパスによって行われます。

なお、ハーフタイム終了後の再開は、試合開始時にセンターパスを行わなかった側のチームのプレイヤーにより、また得点後の試合再開は、得点された側のチームプレイヤーにより、センターパスが行われます。

★得 点

ゴール前に 14.63mのサークルがあり、その中でシュートしたボールがゴールに入ると 1 点が与えられ、試合時間内でより多くの得点を獲得したチームが勝者となります。

★ゴールキーパー

ゴールキーパーに限り使用が許可されるものは、ボディプロテクター、レガート（すねあてで幅 12 インチ以下）、キッカー（足の甲あて）、グローブ、ヘルメット等であり、サークル内では全身を使えることになっています。また、最後の守備者として、体を張ってゴールを守ります。

★罰則と試合の再開

反則があった場合、その反則の起こったグラウンドの位置とその反則の度合いによって、反則したチームに次のような罰則が科せられ、相手側チームによって試合が再開されます。

①フリーヒット

フィールド内での通常の反則があった場合、反則した相手側のチームにより反則の起こった地点から行われます。

②ペナルティ・ストローク

守備側のチームが、自陣サークル内で故意に悪質な反則をしたり、守備側のチームのその反則をしなければ得点になったと想定される自陣ゴール前での反則の場合、反則した相手側のチームにより、ゴール前 6.40m の地点からプレーヤーとゴールキーパーの 1 対 1 でペナルティ・ストロークが行われます。

③ペナルティ・コーナー

守備側のチームが、自陣サークル内での反則や、サークル外であっても 23m エリアで故意に悪質な反則をした場合、反則した相手側のチームにペナルティ・コーナーが与えられます。ゴールから 10m 以上 14.63m 以下の間のバックライン上からプレーヤーがボールをパスして始めます。

④ボールがバックラインを越えたとき

攻撃側のプレーヤーがバックラインの外にボールを出した場合で、かつ得点しなかった場合は、バックラインを出た地点を通るバックラインと垂直の直線上から 14.63m 以内の線上で任意の地点で、守備側のチームによりフリーヒットが行われます。

守備側のプレーヤーによって故意でなくプレーされたか、またはボールキーパーによって方向を変えられた場合、ボールがバックラインを横切った地点の延長上の 23m ラインの上から攻撃側のフリーヒットが行われます。

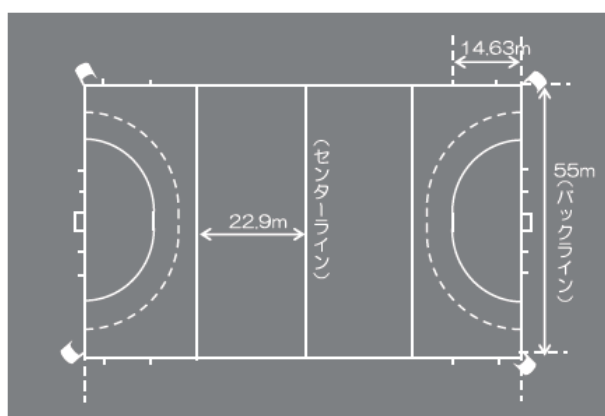
⑤5 m ルール

フリーヒットの際にフリーヒットをする相手側チームの選手は、ボールから 5 m はなれなければなりません。また、このとき味方の選手はボール付近にいても構いません。ただし、23m エリアにおいては敵味方関係なくボールから 5 m 離れなければなりません。

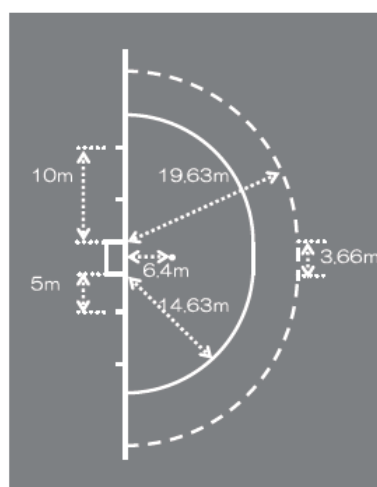
⑥オブストラクション

ボールをコントロールしている選手が、敵のタックルを防ぐために体やスティックでボールを隠すことができません。また、ボールを持っていない選手であってもボールを持っている選手にタックルしようとする敵の選手の行為を体で妨害することができません。

○フィールド平面図



○サークル詳細図



4 ホッケー用語の解説

- ★センターパス 試合開始の方法で、センターラインの中央からボールをパスして試合を開始すること。
- ★プッシュ ストロークの方法で、ボールとスティックをくっつけてボールを押し出すこと。
- ★ヒット ストロークの方法で、スティックを振り上げてボールを打つこと。
- ★スクープ ストロークの方法で、ボールをすくうようにして、空中に高く上げて飛ばすこと。
- ★フォア スティックを表向きの状態で使う方法。体の右側でプレーする場合はその状態になる。
- ★リバース スティックを裏返しの状態で使う方法。リバースヒット、リバースプッシュ、リバースタックルなどがある。
- ★ビハインド 攻撃側がバックラインにボールを出した場合に、守備側の選手によって行う再開の方法